明治三十二年五月二十日發行
（明治二十一年二月二十八日內務省許可）

婦人衛生雜誌

第百四拾號

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌

第百拾四號目次（姓名イロハ順）

講演

一水と空氣に就て……（一）
ドクトル飯盛挺造君

一食事に就て……（十二）
ドクトル長與稱吉君

寄書

一最も恐るへき結核病に就て……（二十）
Dr. S. N.

衛生叢談

一再び白粉の毒に就て……（二十三）

一鉛毒と精神病……（二十五）

一化粧と美術心……（二十五）

一眞の美人……（二十六）
附美人の注意十數件

中外彙報

○肺病の新療法……（三十）

大日本婦人衛生會記事

○五月十三日例會景況……（三十一）

○婦人衛生會懇親會報告……（三十一）

○入會、轉居、正誤……（三十三）

特別廣告

○廣告數件……（三十四）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎地方會員方へ廣告

地方會員方の會費は毎期前納の筈に候處往々延滯の向も有之會計整理上差支勘からす候間此際速に御送金相成度候也

追而御送金の節は小爲替を以て東京市四谷郵便電信局宛御振込相成度候

明治三十二年五月二十日

私立大日本婦人衛生會

事務所

（東京市四谷仲町三町目二十三番地）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

（明治三十二年五月二十日發行）

講演

◎水と空氣に就て

（明治三十一年十二月三日於小石川區役所例會）

ドクトル　飯盛挺造君演說

當年は大分秋候の暖が續きまして、未だ寒いと申す程では御坐いませぬが、とかく雨勝ちで有りまして、殊に今日などは二三日來の雨で、餘程路なども惡う御坐いまするのに、斯く大勢御集りになりましたのは、私に取りまして甚だ光榮と致す處で御坐います。さて私に今日何か御話を申すやうにと幹事の御方より御沙汰で御坐いましたが、私は先年も申上げました通りに、元來が衛生家では御坐いませぬ、衛生家の馬の足にも及ばないので御坐いまするから、私の申上げませうと思ひます事は、衛生事業に對しましては格別價の無い事で有らうと思ひます故、一旦御斷りを申上げましたけれども、何でも宜いから咄したら宜からうと云ふ御沙汰で御坐いますソレをも辭しまするは、却つて失

禮にも相成りまするから、已むことを得ずして御請を致し、今日此檀に登りました譯で御坐います。就きましては別に御利益になることを申上げる事は出來ない次第で御坐いますが、水と空氣とに就て些か私の考へまするだけの事を御話申上げたいと存じます。

先づ水に就て御話を申しますれば、水と云ふものは、我々の身躰生命を保全しまするには、寸時も缺くべからざるものであつて、先づ朝起き出でまして顔を洗ひ、口を漱ぎ、それより飯を炊ぎ、味噌汁を拵へ、香物を洗う、續いて御茶も喫まなければならず、食後の茶碗も洗はなければならず、鍋釜も洗はなければなりませぬ。斯様に數へ來りますればその水なるものは、少しの間も我々を離れることは出來ないので御坐います、故に一言に申しますれば晨起出でゝ夕寢るまでの間、水と云ふものは我々の傍らより須臾も離すことは出來ないものであつて、誠に大切なるもので御坐います。是れは直接の必要で御坐いますが、又間接に申しても水と云ふものは我々に最も必要である。例之ば牛乳を以て我々の身體を養ひ、又牛肉を食べると云ふ様な事を致しますにも、此牛と云ふものを先づ育てなければならない、牛乳を飲まむとするにも矢張り牛を飼養しなければならむ。其牛なる者は何を以て段々成長するかと申せば、即ち枯草や穀物を以て生活を致して、漸々大きくなつて參る。則ち其牛に與へまする處の草や穀物は、水が無くつて出來るかと申せば、水が缺乏ては到底出來ない、矢張り水なるものが有つて始めて成長繁茂することを得るのである、其成長したる處の草や穀物を以て牛を飼畜す

るので御坐います。ソレ故に我々が直接に水を取るのでは御坐いませぬけれども、牛乳と爲し、牛肉と爲して我々の身躰に取り、我々の營養と致して居ります。然れば間接にも亦最も大切のものである。尚ほ一歩進んで見ますると、其水なるものは我々の爲めに大層働きを爲して呉れるものである、何う云ふ働きを爲して呉れるかと申せば、高い處から水が流下し來れば、ソレを以て水車の運轉を試めし、其水車を以て我々の爲めに米を搗き、或は粉を挽き、其他種々の働きをして呉れます。斯くの如く數へ來りますれば、水なるものは直接に間接に我々の爲めに、是非無ければならむもので、水が無ければ我々の生命身體を保全することは出來ない。斯樣に大切なるもので有るとして見れば、其水なるものは餘程撰ばなければならぬ、然るに若しも水の中に何か毒になるやうなものが混じて居りましたならば、直接に害を爲し、我々の身躰生命を安全ならしむる事は出來ない譯で御座います、故に其水なるものゝ良し惡しは能く撰ばなければなりませぬ。往々世上の人は、先づ清澄して居れば、其水は良きものと見て居りまするけれども、決して爾うでない、迚も我々の肉眼を以て視ました丈では水の良し惡しは解りませぬ。化學上の分析に因つて之を見ますれば、此水の中には何に〳〵を含んで居ると云ふことは、確かに證明することが出來る、其證明をして若しもからだの毒になるものを含んで居つたならば、其水は飲料は勿論の事、其他にも用ひる事は出來ない水である。併し古へより今日迄爾う云ふ樣な實學が我邦に輸入しない間は、ソレ等の事に頓着なく自然に任せてあつたのだから、

今になつて殊更に水の良し悪しを論ずるにも及ぶまいと云ふ考へを起す人が有るかも知れぬが、ソレは決して爾うでない、勿論悪い水を飲みたる爲め直ちに害を受くると云ふ様なことではない、漸々に毒なるものが積み累つて知らぬ間に人の生命を取る様なことになりまするから、つまり一度や二度飲んだ水が害をなさなくとも後に害の現はるゝことと丁度我々が外部に疵を受けますると、其疵が癒えましても著しく痕が殘つて居る、ソレと同じに一旦悪るい水を用ひますと、損の立つた處はからだの何處かに殘つて居る、故に水なるものは何處迄も撰ばなければならない。故に我東京市に於ては、一般に何處も彼處も良い水が用ひらるゝやうに水道なるものが造られつゝあつて、已に今明日にも用ひらるゝ迄に竣工して居る、あれならば水を人が用ひても害の無いやうにしてありまする、是れを用ひれば宜い、或は何か私が水道工事の提灯持でも致すやうな事を申すが、是れは衛生上に悪るい水を用ひてはならない、良い水を用ひなければならないと云ふ處から水道工事と云ふものも出來たものに違ひありませんから、例として申したので有ります。ソコで水の悪るいと云ふのは、我々の眼には少しも解りませんが試藥を用ひまして忽ちに其事を證據立て得る處の一二の試験を致して見るで御坐いませう。先づ第一に鹽素(コロール)と云ふものを水の中に含んで居ることがある、此鹽素を含んだ水は飲んでは悪るい水である、併ながら一見した處では此の通り(試驗管中の水を示さる)少しも濁のない澄み渡りたる處の水で御坐いますが、之に試藥を投じますと忽ちにして鶏卵の蛋白の様な白

濁が出來て參る、斯樣に變る所の水で有りますれば、最早是れは鹽素（コロール）なるものを含んで居るから我々の日常用ひる所の飲料とすることは出來ない、則ち有害なる水である。モウ一ツ爰に御坐いまするのは、亞硝酸と云ふものが混じて居るので、是れも人躰に毒である、ソレをも今目前に試して御覽に入れます。斯樣に澄みて見へる所の水で有りますが、之れに少しも色の着いて居りませぬ所の試藥を入れて見ますると、斯樣に黑い色を呈します、但しこれは全躰黑いのではない、薄くすると蒼いので有りますが、濃いので黑く見へるので御坐います、是れは則ち亞硝酸と云ふものが、水の中に這入つて居る、これも我々の飲料には用ひることは出來ないので有ります。モウ一つ試みまするが、是れは有機物が水の中に這入つて居る、有機物の這入つて居る水で有りまするど、赤紫色の液を入れまするど、其色が水の中に這入つて消えて了う、斯う云ふ水も、やはり我々の飲料として取ることの出來ない水で有ります、斯樣に鳥渡試みても其良否が解るので有りまするから之を化學上に一々證明致しますれば、此水は飲んで宜い此水は飲料とすることは出來ぬと云ふことが判然する、斯樣に化學上有毒物を含んだ水ならば無論之を飲料とすることは出來ない譯で御坐います。是れは直接に水の惡るいのを取ることはならむと云ふの戒めで御坐います。又水なるものは何時でも我々に平等に得ることの出來ないものである、ソレは何う云ふ塲合を申すかと云へば、夏になりまするど、水が漸々減じまして則ち旱魃と云ふことがある、何うしても斯うしても我々が飲料水を得ることが出來な

い、或は田畑に給する水に乏しくて困難をすることがある、其時には水は何うなつて居るかと言ひますると、これは皆高い所に上騰て了つて居る、水が高い所に上がつて居るから下の方の水が不足になつて來るのである。我々の眼には見へない樣な蒸氣になつて高い所に上がつた水が、一旦冷氣に遇うと雨となつて降つて來る、その雨となつて降つて來るのを以て諸方に好き工合にふり蒔いて呉れる、雨が降つて一體の土地に水をふりまくと云ふことがなかつたならば、水を得ることの出來る所は得らるゝけれども、水を得ることの出來ない場所は全く得られない樣になつて了う。乃で斯樣な事は誰れがして呉れるかと云ふに、是れは太陽である、太陽が熱を水に與へて蒸氣となして高い所に上げて、而して諸方に振り蒔いて呉れる。併し時と致しますると、其水が一つ所に沈滯して、爲めに大なる害を受けることが有る、當年なども北海道は大分に水害を受けました。又二三年以來、東海道筋尾參の地方に於ても水害を蒙り、身命を喪ふものさへ澤山有る、當年北海道の慘狀などは言語に盡されない狀態で有ります。水は極めて必要なものでありますが、又斯樣な害を爲すことも有ります、併ながら是れは我々の人意を以て避けることの出來るものゝやうに思はれる。洪水で河の水が溢れ、人家樹木田畑を押流すと云ふのは、畢竟堤防なるものが不充分である結果で、是れは我々の力で充分堅固にして置きましたならば、慘狀を見る筈は無いので有りませう。して見れば我々の身命を完うせんとするには、廣く申して見れば矢張り河の堤防などにも心を配らなければならぬものかと存じます、然らば

さう云ふ慘狀などの現はるゝことの無い樣に、河の堤防などを堅固にしやうと云ふ計畫が、若しも世間に起りましたならば、斯樣なる所には本會の方々も續々贊成あらむことを冀望致します、やはり是れも衛生會の一部分の事業であるかと思はれます。又其水なるものが倘ほ害を爲す所を申して見ますれば、段々空中に蒸氣となつて騰りまするど、遂に澤山の雲を起して、雷聲を轟すことがある、而して落雷して人畜を害すると云ふ樣なことは屢々御坐います。故に水なるものは人に大層效能の有るもので、又一方から言へば間接に人を殺すものともなる、併し是れも矢張り人意を以て防ぐことの出來る事柄で有る、則ち雷の落ちない樣にするには避雷針なるものを造る、避雷針なるものは雷が人の體、家等に落ちるのを除けて、地の方に導いて了う仕掛で有る、其避雷針を設けない所には必す雷が屢々落るかと云ふに、是れは又然うでも有りませぬ。併し序で故雷の時の御注意を申して置きませう、まだ是れから冬に向うので、雷公も姑くは中休みで御坐いませうが、夏が來て雷聲轟き近傍に落ちはせぬかと恐るゝ時分には、成るべく室の中でも大きい室の中央に坐する事、又電燈、煖爐、煙筒、金物の有る所に近くことは一切禁じなければならない、縱ひ室の中央でも金物の有る所に坐しますれば、矢張り害を受けます、何故かと云ふに金氣の物は能く雷を導くものである、故に金氣の物を離れて成るべく室の中央に坐し、戶障子或は柱の傍らに往つて立つのは害を招くもので御坐います。又我々等が昔から知つて居るごとく雷鳴の時は蚊帳を吊ると云ふことをする、是れはどう云ふ處から來た

るので有りますか知りませぬが、蚊帳を吊るのは決して惡るいことではない、とかく若い人は斯う云ふことをするのは舊弊だと云ふ樣に言ひますが、處が爾うでない、蚊帳を吊るのが何うして雷除になるかと云ふに、これには矢張り物理上の道理が有る。則ち蚊帳を造る處の麻なるものは電氣を導く事の惡ひものである、デ有りまするから、蚊帳を吊つて其内に這入つて居るのはつまり電氣を導かない物躰で身躰を纏ふて居るのと同じである、加之蚊帳の内に居るには片隅より中央の方が宜い、されば自然室の中央にも居らるゝ譯で有りまするから、至極私共贊成をして居る。併し雷鳴の時に線香を立てるのは、何とも申されない、是れは宗教上から來つたので、何う云ふ効能が有るか解りませぬが、物理上から云へば線香に限らず、總て煙を出すのは惡るい、煙は電氣を導くもの故、若しも煙の出る處が有ると、其煙を傳ふて室内に這入つて來るから煙を立てるのは禁ずべき事で有ります。斯樣に段々談話が枝葉に渡りましたが、併し是等の事は皆水に關係の有ることでありります、故に水なるものは我々の身躰を保全するに必要缺くべからざるもので、一方から云へば又水から害を流すこともあるが、是れは人意を以て避けることの出來ることで有る、避けることの出來るものとすれば、我々の身躰を保全すると云ふ點からしても、其害を除く方法に就ては、多勢の人の心懸けなければならない事と存じまするから、一言申上げましたので有りまする、デ水の事は是れだけにして空氣の事を少し申上げませう。

空氣なるものは水と共に我々の身躰を保全致しまするには缺くべからざるもので御坐います、水よりは尙ほ一層大切である、空氣が無ければ我々の身命をして完うすることは出來ない。水の方で云ひますれば、少しの間は無くとも身命を保つて居ることが出來る、空氣なるものは分時たりとも無くてはならむので御坐います。則ち我々が呼吸をするのは、空氣を吸ひつゝあるので御坐いますから、若しも其空氣を供給する所が無かつたならば我々は直に其命を終らなければならない。併し其空氣なるものは、我々の眼を以て見ることの出來ないもの故、誰れも氣が附かない、併し空氣なるものを我々は須臾も離るゝことは出來ない、則ち空氣の中に我々の生活して居るのは、丁度水の中に魚の生活して居るのと同じで有ります。デ空氣も水同樣、惡るい空氣であつたならば、身躰に害が有る。例之ば大勢の人の集まる所、即ち刻場、寄席の如き所に永く這入つて居ると、頭痛がすると云ふ方が有る、面白き事を見、心を慰めて居るのに頭痛がする、あたりまへならば頭痛しても面白いために感じない譯である、處が面白いと思つて居つても頭痛を起す、ソレは何の爲めかと云ふに、空氣がだん〳〵惡るくなつて、炭酸瓦斯が室内に滿ちまして丁度酒を飲まない人が急に飲んで頭痛がし、心持が惡るいと云ふのと同じで、つまり炭酸の毒に醉ひつゝあるので御坐います、又船暈し易き人が、室内に這入つて居ると大層に苦むが、甲板に出て居れば、幾分か其苦を減ずることが出來る、是れも矢張衆くの人の集まる處は頭痛がすると同じで、船室内に這入つて居ると、船に醉ふのと、加ふるに炭酸の中毒

と、兩方の爲めにからだが惡るくなるので有りますが、甲板の上であれば船に醉ふばかりであるから大へんに苦みが輕い。さて其炭酸と云ふものは何うして出來るかと云ふに、是れは皆樣が銘々で製造して居るので有ります。我々が空氣を一旦吸つて、出す時は炭酸と云ふものを吐く、又火を燃すときは矢張り炭酸を拵へつゝ有るので御坐いまする。故に一人で炭酸をこしらへて室の內に振り撒くのならば、ソレ程の事もないが、狹い所に多勢の人が這入つて、銘々に炭酸を製造致し、加ふるに寒い時分は、火鉢に澤山の火を入れて、此處でも炭酸を製造して居る故、室內に炭酸瓦斯が充滿して居ります。ソレ故に密閉したる室は煖かではあるが、頭痛がする、其頭痛のするのは煖くなつた爲めではない、則ち炭酸の中毒の爲めに頭痛を起すので有りますから、其塲合には室を少し開けて冷めたい空氣を入れる、冷めたい空氣が好いと云ふのではないが、つまり炭酸を含まぬ新鮮なる空氣と交換をするので有ります。乃で炭酸なるものゝ人に害の有ることは是等の例を以て、明かに解つて居る。併し通常何人も見ることが出來ませぬ、毒の有ることを認めませぬ、茲に其炭酸の毒の有ることを見まする爲めに、單簡なる事を試みやうと思ひます、是れは既に他の講師諸君が御目に懸けられた事柄で有らうと思ひまするが、鳥渡其毒になることを證據立てる爲めに單簡なる試驗を致します。

炭酸の有毒なることは、我々人間に限つたことではない、他の動物に於ても同じことで御坐います、今我々の躰に試みましては、餘り衞生事業に對しては善い事では有りませぬから、此小さき鼠に試み

るで御坐いませう。彼の鼠は何も知りませんで、壜の中に面白氣に遊んで居るが、今此壜の中に炭酸を送ります、(護謨管を以て壜中に炭酸を送る)今は我々でいへば「はて頭痛がして來て困つたな」と思つた位ゐで有りませう、(須臾にして絶倒す)遂々殪れて了つた併し出したら復活き返へるかも知れませぬ(壜中より取出せば暫時して元に復しぬ)……是れ程の毒が有りますから、我々は注意をしなければならぬ事で有ります。劇塲などでは面白くて堪へられむから「頭痛がするが、モウ少しの辛抱だ」などゝこらえて居ると竟に眼眩がして倒れる樣な事が有りますから、決して爾う云ふことは爲すべからざる事で有ります。爾う云ふ頭痛がする樣なことが有りましたならば、直ぐに外に出で、新鮮の空氣を吸はなければならむ。是れは動物に向つての毒で有りますが、ソレと同樣に、此炭酸と云ふものは火も消して了ふ、火炎が炭酸なるものに遇ひますると忽ち消えて了うのは、丁度炭酸が我々の身躰に這入つて害を爲すのと同樣で御坐いますから、炭酸の火に害の有ることを試みるために、茲に單簡なる試驗を致します(二尺ばかりなる竹を割りたる内側に數個の蠟燭を立て火を點じて壜中に溜めたる炭酸瓦斯を、恰も水を流すが如く竹の端より流下すれば炎は忽ちにして消滅す)則ち炭酸なるものが、火に害のあることは此くの如くである、丁度火炎に水を流したると同じで有ります、これと等しく活きて居るものにも害が有るので御坐いますから、前申上げました通りに、炭酸の有る所に近いてはなりませぬ。故に穴藏の如き所に入るには、先づ蠟燭を持つて往つて、火の消えるや否

やを試み、然る後這入ります、濫りに這入つては若しも炭酸の有る處であつたならば、只今の鼠同樣に殪れて了うので御坐いまする。なほ雷電の事に就て、電氣の機械を以て試み樣と思ひましたが、不幸にも運搬中に機械を損じて用ひることが出來ませんで誠に殘念で御坐いますが、是れ亦致し方のない事なれば、今日は是れで終りに致します。誠に何の御利益にもなるまいと思ふことで有りましたけれども、前申上げました通り、自分は衞生家の馬の足にも足らないもの故、何も上申ぐる事を、外に持ちませぬから右の單簡なることを申して、今日の責任を塞ぎました次第で御坐います。

◎食事に就て（二月十一日例會於芝青松寺）

ドクトル　長與稱吉君演說

今日は本會幹事三浦令夫人からの御依賴を受けまして、皆樣に一席の御話を申上ぐるとになつたのは、私の最も光榮と致しまする處で御坐います。なにぞ御利益になる樣に面白い御話を申上ぐれは宜しいのですが近頃仕係つた仕事が有りまして誠に忙はしう御坐います爲めに申譯がましふ御座り升が、深く取調べて御話をする暇が御坐いませぬので私の專門と致して居りまする消化器の中で心附いた一二の御話を僅か十五分ばかり前坐として申上ぐるつもりで御坐います。

我々の身躰は一つの國と同じことでありまして、國には政府も有り人民も有るが如くに我々のからだにも頭腦即ち政府が有り、身躰四肢即ち人民と云ふものがあつて一國即ち一の人間と云ふものが出來て居る。そこで世界五大洲中には無數の邦國が在つて而かも皆敵の國であるから外國の侮りを受けず立派に其獨立を維持することに汲々として孰れも皆富國強兵の道を、ソレ丶丶に計つて居るので有りますが丁度我々のからだもソレと同じで、自分のからだを丈夫にして外に對するの防ぎをしなければならない其防衛は何う云ふものに對してかと云へば即ち病氣に對する豫防を常に心掛けなければならない我々の敵たる病原は何處に在るかと云へば間斷なく呼吸をしてからだの中に吸收する空氣の中には無數の徵菌が塵埃と倶に含まれて居ります又我々の毎日三度宛食べる食物の中にも種々なる病毒が含まれて居ります我々は斯くの如く毒の中に生活し毒を含みたる食物を食べ宛あるのであります。此毒の中にありて其健康を維持して往くことの出來るといふのは何う云ふ譯かと云ふに我々の身躰が健康であれば我々の身躰の中に空氣と倶に病毒が這入つて來ても寄せ付けない食物の中に毒が這入つて居つても防いで之を追ひ退けるだけの力を持つて居るからである一國が其民を富ませ兵備を強くして其躰面を維持して往くことの出來るのと同じ理窟で、我々もからだを健康にして無數の病原に打勝ち或は之を防ぎつ丶あるので御坐いますソレで胃と腸とはからだの中でも最大切な部分で……私の口から斯う申すとなにか手前味噌を謂ふやうに思召す御方もあるか知らむが、からだを一國に譬へ

て見れば胃と腸とは其國の大藏省である、今國を富强ならしめんとするには國民より租税を取つて之を大藏省に聚め兵士を養ひ軍艦を造つて敵國を防ぐ用意をし國の安全を計ると云ふことを第一にする我々の身体も病氣と云ふ敵を防ぐには胃や腸で充分に營養を取つてソレを身体中に普く配布して常に健康にあらしめ病氣の襲來に遇つてもソレに打勝つて往かなければならないソレであるから我々のからだは取りも直さず一つの國、胃腸は一國の大藏省であると申しましたのであり升。

さて國を富裕ならしめ、成るたけ國の力を添へ兵備を強くしやうと云ふには、先づ第一に大藏省といふもの丶財政を鞏固にしなければなりませぬ我々の身体の健康を計るには胃と云ふものを丈夫にして、からだの中に出來るだけ充分の養分を取り豫め病氣に罹らぬ樣に防ぎをせねばならぬかさて胃を丈夫にするものはいろ〲の方法が御坐いまして或は運動を力め或は軟く消化し易き滋養分を食べるとかいろ〲の事が有りますが始終滋養分を用ひ規則正しく運動をするといふ事はむづかしいことで誰れしも其善い事だと云ふことは知つて居るが行う事は甚だ難いので有ります殊に婦人方は家の中に復雜なる用が多くてなか〲一日に一度とか若くは二度とか極めて運動をするといふのは言ふべくして實際出來ない事と思ふ又食物も軟き滋養分はかりを好まる丶方もないから常の食物も軟き滋養分のみを召上れと御勸め申した處が、是れも言ふべくして行はれぬ事と私は思ふ然るに今日申上ぐることは最仕易く且つ一生持續することの出來る而も上下貴賤を問はず實行の出來ることを

私が消化器病の專門醫師として心附いた一つ二つを御話しましようと思ひます即ちは一は食事の仕方一は食事時間の事であり升、此會では前々から坪井博士が生理の事を御話なされ、其他にも食物が何う云ふ風に消化すると云ふ𪜈に就ては諸博士學士等よりも御話になつてゐるから皆樣も充分御承知で有り升せふか我々が、日々取る處の三度の食品は胃と口とで消化する二種類で有ます胃の中で消化するのは肉類例之ば魚類鳥獸 肉 鷄 卵 等の所謂蛋白質に屬するものが主に胃に於て消化し米飯麪麭等の穀物類は皆口の中で消化するので御坐います。御承知の通り口中には唾液といふものが有る、是れは決して只の水では御坐いませんのでいろ〳〵の藥になるものを含んで居つて其藥で米麪麭を消化するのであるが、その中でも殊に「プチアリン」といふのが一番大切のものである其「プチアリン」が穀類と出遇ますると穀類の中に浸み渡つて段々に消化し、遂に砂糖となつて躰中に吸收されて營養になるので有りますソレ故唾液は穀類の消化には一番大切のもので御坐います而して此唾液が成るべく能く食物に混じ、成るべく能く消化して往くやうにしまするには咀嚼と云ふことが第一必要で有ます。我々が食物を齒で以て嚙み碎いて嚥下すると云ふのは硬いから嚙むのでなく今言ふ「プチアリン」と云ふ藥を總躰に能く行き廻はる樣に混合せん爲に嚙むので軟かいからといつて鵜呑にしては不可い食物は硬い軟かいに拘らず是非とも充分に咀嚼して食べなければならない普通少し硬いものは誰れしも能く嚙みますが、軟かいもの例之ば粥とか云ふやうなものは嚙むことを怠り勝ちのものである、ソレの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

みならず食物の種類に因つて例之ば生鷄卵或は汁類スープなどを、人に由つて癖が有つて穀物と別にして食べずに混ぜてお茶漬のやうにてし啜り込む人が有る、是れは大へんに悪るいことで斯すると食物は口中に止まる時間が短いから穀類の中に充分「プチアリン」が浸み込む暇が無い御飯を粒で嚥み込むのと同じ理窟になり幷病人などが熱い御飯や粥に生鷄卵を搔き混ぜて食へる習慣が有るが是れは極く悪るい事で鷄卵の消化方は同じながら鷄卵が上に蓋つか居つて丁度米に着物を着せて食るのと同じてあるから米に直接に唾液が觸りませぬから「プチアリン」が働きかける暇がない少しも消化ないで胃に入ります（胃は穀類を消化する作用がない）其儘腸に下つて了う是等は極く些細の事なるが理窟から考へても醫者の經驗に因つても右の通りでありまして最大切の事で御座います。それから又食事をするのに、例之ば膳に一碗の飯と汁と魚肉とが附いて居るとすると魚と米とを口の中に入れて咀嚼しつゝ有る間に、食物を早く嚥下さんが爲めに汁を啜り込む癖の有る人が有るが是れは極く宜くない事で、口一杯食物を頬張つて其中に汁を流し込むのは最悪るい、飯と汁とを食べるには先づ一口一口に食物を噛み碎いて嚥下してから汁は汁ばかり別に食べなければならぬ又是れは消化の良きと否とに拘らず貴婦人方に爾う云ふ不行儀の事があつては人に見られても躰裁が悪るい況んや其事がからだの爲めにも宜くないのであるから速に改めるやうに致したいと思ふ。

次に成べく食事時間を長くして凡そ一碗に（碗も大小種々あるが）大概十分位ゐ懸つて二碗ならば二

十分、三碗ならば三十分として食べるが宜い長くかゝればつまりよく嚙むのであり升から胃は夫れ丈樂をする一度の食事に少し宛樂をしても一日三度宛故一生涯には非常に樂をする胃を樂にさせるのは胃を健康にする一番の秘法で有ります人に由つては長く嚙めば味が惡るくなるといふ人が有るが、是れは大きな間違で、只其人々の習慣であつて能く嚙み砕いて食べてこそ其物の味も出る其習慣を直すには、少しの間長く嚙むことを力めて練習すると知らず識らずの中に習慣を爲して遂には其方が心持ちも快くなり從つて味も佳くなつて來ます誰方でも御試めしになれば解るが大概十分か十五分で食事を終る就中早食の人は五分位ゐで濟む人がある今一碗を十分と申したが、最初は其半分の五分としても段々慣るゝに從つて時間を引延ばす事が出來ますよく母親が子供に行儀を訓へるのに「サッサと食べてお了ひ」と叱るものがある、成程子供の行儀も大切のことであるには相違ないが、不行儀のことをしない以上は單食事の長いと云ふことを母が子に責むべきものではない成たけ長く懸つて咀嚼をして食べる樣な躾をこそしなければならぬと思ひます。

次に食事時間の事、通常朝晝晩と三度の食事を、大概の家では朝八時晝十二時、夕飯が早き家は五時遲き家が六時位ゐに割當てゝある是れは古くからの習慣であるが併し胃と申しまするものは一度の食事を胃の中で消化して其消化したものを腸の方に力わざで送り遣らなければならないソレで我々は食事をするときにはソレを味うから美味とか不味とか云ふことを知つて居るが食物が胃の中に這入つ

てから先きの仕事は感じない、胃がどう云ふ苦みをして居るかは一向知らないけれどもソレを調べて見ると胃はなか〳〵遊んでは居らない食物が這入つて來るとこれを充分消化させて夫れからだん〳〵と腸の方に送り出してからだの營養にします食べるのは一時でも胃で之を消化するには何時間も懸つてなか〳〵骨の折れる事といはねばならない然るに未だ前に食べたものが消化しないうちに追ひかけ〳〵て食物が胃の中に這入つて來ると段々長い月日には胃袋が疲れて若いときは極く丈夫であつた人も三十四十になると段々胃が弱なりからだの營養が不足して來まして、從つて顏色も惡くなる風などをひき易くなる凡ての病氣にかゝり易くなる肺病などの樣な忌むべき病氣にも罹り易くなる故に成たけ胃袋の勞れないやうに何時までも丈夫に長く用に立つやうにするには先刻申した樣に三度々々の食事の間に、なるたけ休息時間を與へて遣らなければなりませぬ其休息時間はどの位ゐあれば宜いかと云ふに朝と晝との間に少なくも五時間位ゐ、晝から夕飯までは六時間乃至七時間置くが宜いです歐羅巴のよふに肉類脂肪類とか云ふやうなものを主なる食として居る人種は食後七時間を經れば胃が空になつて了うといふ調べが付いてある日本人は歐羅巴人と少し食物が違ひますが、凡そ三杯の飯に四十匁の肉、豆腐半丁を食しまして、何時間經れば胃が空になつて了ふかと云ふことを私が調べて見ましたら大抵五時間で空虛になつて居ります今私が午前より午后の時間を引延ばしたのは朝食には通例何處でも淡白の物を擇ぶ、故に五時間を經れば充分消化して、はや後のものを消化せむと胃が待

ちかまへて居る乃で晝の食には普通食物も肉などが多い、殊に既に朝食の消化で胃も大分勞れて居るから少し長く時間を與へて六七時間の後に晩食をするよふに至した譯である日本の食事時間は大概の家で朝は八時晝は十二時夕は五時となつて居るが私の時間割と比べると一時間宛早くなつて居る、是れでは前に言ふ通り胃の休息する間が無いからどうかモウ一時間宛延して戴きたいけれども、家々に由つてソレ〻〻家風が有つて、なんでも夕方の食事は燈火の點かない中に食べるとか云ふ風の家が有る、夏日の長い時分はソレでも宜いが、冬は四時少し過ぐる頃は已に點燈しますから是れより早く食べると云ふことであつては晝食と晩餐との間が四時位ゐしかない、斯う云ふ事は大層な間違で、何も太陽と胃袋と關係の有る譯ではありませぬから是非共時間割で胃に養生をさせつゝ食事をするのが即ち胃の攝生法であり、即ち身躰の養生法であり升から朝は出來得るならば七時に食し、晝は十二時夕は六時若くは七時に食事をする樣に改めて戴きたい隨分、遲く夜の食事をすると庖厨の片附きが惡いと云ふよふな事情も有りませうが、併しからだの健康を保ちまするにはソレ位ゐの不都合は敢て言ひ立てにする程の事では有るまいと思ひます且つ日々規則正しく運動をするとか、軟かき滋養分を食べるとか云ふことに比べたら餘程仕易い事で、どの家でも出來ない筈はない富める人は滋養分ばかりを撰んで三度々々食べることも出來るが、貧しい家では爾うは往かないソレに反して食事時間を改めるのは貧富を問はず仕易いことで有りますから廣く行はれることで有らうと思ひます之れは唯御實

行なさる計りでなく御家の規則即ち御家風として御子孫まで御傳へになる樣に願ひ度のであり升私の今日御話申し上げたいとおもひましたのは此の二ヶ條で有りまして、誠につまらぬ事であるが、專ら行ひ易くしてからだの爲めになる事を申上げやうと云ふ點から考へて御話いたしたのであります此次席には皮膚病學の專門家の土肥慶藏君が面白い御話を成さるさうで御婦人方には大に關係の有ることで御裨益も多からうと存じます私は些か申譯だけの御話をして御約束の責を塞ぎました次第で有ります。

寄書

最も恐るべき結核病

Dr. S. N.

我々人間は實に種々樣々の疾病に侵さるゝものにして其病の數は擧て數ふること能はす或は流行し又は父母其他の近親等より遺傳するものあり此多數の病の内にて何病か最も恐るへきものなる乎此を知らんと欲せは先其死亡數を調査し知るよりよきはなし而して死亡數の最も多き病は最も恐るべきものなるは論なきなり歐米諸國を始め我邦に於ても數多き病の内にて死亡數の第一位を占むるは結核病なり歐羅巴に於て調査したる統計表に依るに人間の十乃至二十プロセント（一プロセントと云ふは百人

に付一人と云ふことと故に二プロセントは百人に付二人なり）即ち人間百人に付十人乃至二十人は結核症に斃ると云ふ東京市の人口は明治廿四年末日調に依れは百十八萬五百六十九人今日は必す増加して二百萬を超過すへし假に二百萬の人口とするときは東京市の人民二十万乃至四十万は結核病にて死し我日本國民の數四千七十一万八千六百七十七人此れ又増加し四千八十万以上に達すへし然るときは四百八万人乃至八百拾八万人は此病にて斃るへし實に驚く可く悲む可きの至なり且つ大人は種々の疾病にて死するものゝ三分の二なりと云ふ以て結核病にて死するものゝ如何に多數なるかを知るへし

結核病の毒は極めて微細なるものにして肉眼にては見ること能はさるも顯微鏡を以て試驗するときは素人と雖も容易に知ることを得るものなり其形はコンマ（，）様なるが故に結核菌又はコンマ菌と稱す此菌は呼吸器系統（喉頭、氣管、肺）消食器系統（胃腸等）亦は創所より體内に侵入し身體到る所に此の病を發し漸次全身に蔓延し遂に治すへからさるに至る病毒の肺に達すれは肺結核症を發し喉頭に來れは喉頭結核腸に於ては腸結核となる此病の發し易きは肺、喉頭次て腦、腸、骨、睾丸、腎等なり故に肺結核患者の痰腸結核病者の大便等には無數の病毒を含有し人若し此等の痰大便に觸るゝときは容易に傳染するが故に尤も注意すべきなり然れとも假令觸接したりと雖も叮嚀に其觸れたるものを洗浄し消毒するときは此憂なきに至る啻に直接に觸れたる場合のみならす此痰、大便等か衣服、手拭、ハンカチーフ食器其他の物品に附着しあるときは間接に此物より傳染することと疑なし亦痰、大便等の塵、土砂に

混し之より病毒を受くることあるも亦明瞭なり故に一家内結核病者あるときは頗る注意し痰などは一定の痰壷に咯き必す庭園、土間等に咯出すへからす

痰壷に受けたるものは昇汞水、石炭酸水等にて消毒するを要す亦は咯痰すへき壷に最初より右の消毒藥を盛り此内に咯くも最も良き法なり此等を煮沸して病毒を消す法あれとも一般には行ひ易からす右に述ぶる如き消毒法を怠るときは一家一人より家内全體は無論他家にも傳播するに至る豈寒心すべきの至ならすや大便も同様にして此病毒は容易に死滅せす一ヶ月位は確に生存するものなるが故に嚴重に消毒せさるへからさるなり

結核病は虎列拉、赤痢、腸窒扶斯、痘瘡の如き急性の傳染病にはあらざれども而も此等急劇の諸病より數倍恐るへき病なり其理由如何にと云ふに虎列拉、赤痢等は急性にして忽ち外に現るゝこと烈けれども結核病に在ては既に傳染したる後と雖も直に顯るゝことなく最初は頗る輕易の病の如し譬へは至極壯健なる人の風を引き易くなり又は認むべき原因なくして身體何となく衰弱する傾向あり或は寒冒後常に少量の咯痰ありて容易に全治に至らず等種々の訴あれとも要するに初は更に意に介せず醫師と雖も最初は確診し能はさること多し此病毒の人身内に侵入するに於ては容易に治すべきものにあらず然れとも醫師の診斷を受け結核症の疑ひあり亦此に變ずるやも測られすと猶は診斷の明ならざる時機に於て醫師の訓に從ひ嚴格に治療攝生を行ふときは思はざる好結果を得て天壽を全ふすること難からざ

るなり
世間此理を知らさるものは勿論學識あり文明的敎育を受け日新のことには精通し結核病毒の恐るへきをは能く知得する紳士貴女にして病の急劇にあらす眼前病毒の恐る可きを認めさるか爲め可惜最愛の妻子をして病毒に感染せしむるもる往々實驗する所なり
結核患者の使用したる物品にして熱湯にて洗ひ亦は熱湯中にて病毒を除き能はざる衣服、夜具の類は可及的太陽の光線に晒すを良とす痰、痰壺の如きは前に述ふる如く昇汞水、石炭酸水其他の藥品を以て消毒するを良法とす

衞生叢談

再び白粉の毒に就て

近頃は追々衞生も進んで參りましへから鉛毒の恐るべきことは皆樣も御承知のことでありましやうが前號に續きて再び白粉の毒即ち鉛毒の恐るべきことを說かんに凡そ白粉の中に有りまする毒は鉛か最も多く這入つて居る何爲鉛が多く這入つて居るかと云ふに鉛が餘計に這入つて居りますれは白粉か白く能く附きます又一には價直も廉く拵へることか出來る之は日本の白粉許りでは有りません矢張り西洋の白粉でも鉛の這入ッたのが御座いますして見ますると先差當り毒になると云ふは鉛で

す鉛が毒になりますれば是れが何う云ふ風に害を爲すかと云ふに是れは色々で御座いますが最も酷く毒になつた事を御話し致しましやう

鉛の這入ッた者を始終身躰に附けますると身躰の皮の中に這入ります所が鉛と云ふものは身躰に這入ると急には外に出ません身躰の中の人間にとつて大切なる腦だの肝臟などゝ云ふ器の中に殘こッて仕舞います而して時を經るに從つて色々の變化を顯し始めは顏色が惡くなつて集ります是は平生誰れでも云ふ事で御座いますが濃く白粉を附けて居ると云ふと何うも顏色が惡るくなる即ち顏の色が只青い計りでなく顏が粗になつて水氣が無くなり色も黄味を含んだ青い色になる唇の色に紫色になつて齶や何かから血が出る夫れと同時に心持ちが惡い樣になつて何もするが厭になり「モウ相談なんぞは何でも能い、モウ何うもそんな事は面倒だ」と只恐圖々々として仕舞うのです夫れから又先きに進んで來ますると身躰が段々瘦せて目が凹み皮が凡て今まで張ッて居た皺が餘計に出來て來る次は血が寡くなります汚ない御話しだが便通がなくなつて來て身躰が震へる先づ手を出して居るも其手が震へる斯う云ふ樣な病氣は幾何も御座いますから中々見ても何の病氣だか知れないがモット一段先きへ進んで來ますと齒の痛みが始り下腹の眞中の處が大變酷く痛く夜間も寢られず起ても座ッても居られない樣な痛みで手足が利かなくなつて仕舞うンて手がブランと下がつて來ますそして四肢が震へあがッて參り妙な恰好になりまするから醫學の書物にも書いて有ります其繪にはマルでお化けの樣にかいてあります恰度手が利か

なくなると今度は足の方に來ます足を引ずッて歩き眞實には利かなくなります

鉛毒と精神病

夫れから鉛毒に侵されたる最とも甚だしきものは眞實の精神病になることとあります眞正の精神病になると心が弱つて仕舞ひ恰度氣ぬけと云ふ樣に成ります是等は多く鉛の細工をして居るものとか、或は鉛の道具を製らへる人、鐵鉋の玉を製らへる人、活字を製らへる者抔で白粉を附ける人では無いのですが濃く白粉を附けます者、又始終白粉を附けて居る者が毒に罹つて手足か利かないで居ると云ふのは隨分有るへきことで役者の女形なとには隨分例のあることとである併し白粉を少し許り附けても決してソンナ害は有りません况して顏だけの白粉殊に近頃では濃く附ける事が流行やらない只顏に少し附けるだけの事ですから眞正の鉛か這入つて居りましてもソンな酷い事は無いと思ひますが衛生上是等の注意がなくては叶はぬことさレバ先づ此の鉛の這入ッた白粉は成るべく廢して夫れよりも温飽粉などを附け人間固有の美を飾つて成るたけ奇麗に致しますのは人間の尤も貴むべき美術心であります

化粧と美術心

一躰御婦人方が白粉を附けると云ふのは何う云ふ所から起ッて來たので有るかと云ふに是れは實に尊い心から起ッて來たので白粉を附けることは大に奬勵致してよいと思ひます但し前にも引續き申し上げましたる通り鉛毒は恐るへきもの故に成るべく無害のものを專用せられんことを望みます世間の諺に「色の白いは七難隱す」と申しますが

實に之れは婦人方の常に心懸けらるゝこそ緊要なれ而して人間に一躰天然自然　此美術心と云ふものは天賦より授かッて居りまして人間の動物の上に位ひして居ると云ふものは道德なり宗敎なり美術志想なり人間は人間だけに立派なる所がありまして第一人間は自分の身躰を美くしく仕樣と云ふ心、則ち是を學問上の言葉で言いまするど即美術心で啻に自分の身躰を奇麗にする斗で無く自分の心の中も美くしくゐるようにと云ふ心が始終あります之が尤も大切なる所の美術心でありまず先づ自身の身躰から言ひますれば髮を結びまする所から、着物を服て居る所、着物を着て居るのは暖くするゆゑ斗りては御座いません其色も擇ひ形も擇びます夫れから未だ外に大切の美術心が人間にはあります即ち「自分の自然に具りたる容貌よりは一段美くしく仕樣と云ふ心が有ります」夫れでありますから美術心と云ふのは自分を奇麗に仕まする事、夫れから身姿、身躰を奇麗にする所からして始つて來ます夫れより段々進みますと必や身躰斗りでなく住家を奇麗にする、住家を奇麗にするには彫刻、畫刻、書畫等が皆夫々に供なッて來ます、而して此美術心を眞正に發揚しようと思ひましたならば宜しく根本よりも美の深奥を探らなければなりません

眞の美人

是迄述べ來りたる美術心を發揚せしむるは頗るよしされども之に伴ひて素生的眞正の美人を作ることが緊要であります而して眞正の美人を作り出する根源は實に身躰の健康であります眉目端正なりとて决して美貌とは云ひません皮膚が蒼白なるを

以て艶麗とは申しません要するに適度の健康を得て秀麗なるものこそ始めて眞の美と云ふへきものであります世に白色劑なと〻稱する化粧藥か許多ありました中には全く無効にして僅かに芳香を帶ばしむるものが隨分多く中には多少其効能なきに非ざるも眞正の美貌を冀ふものは斷じて藥品を願ふの念を去りて身体の内部よりも其美容を作り出す事を心懸るべし一意たゞ藥品をのみ願ふが如きは誠に笑ふへきの限りであります若し化粧品によりて容貌の美貌を別つことが出來ますれば貴族は必ず皆美くしき容貌でなければなりませんが貴族にも矢張醜くき顔が有ますソウかと云ッて貧困にして其日に苦しむの細民にも美くしき容貌なるもあります之を要するに皮膚の色は其血液によるものにて皮膚の日に焼け易きは一に食物に原因することがあります又胃病のあるものは顔色が總べて美くしくありません是れは體内の諸機關に影響を及ぼしまして血液の純潔でないからであります其の結果は遂に厭ふべき顔色となりますサレバ顔色の美を欲するものは勉めて胃病等に罹らぬ様要心せねばなりません

せさ衛生的美人を作らんには又夫れ相等の注意がなければなりません其注意としては色々の仕方もあります米國にて美人の稱あるシラー夫人の姉妹なるゼチス孃は申しました婦人の醜美は生れ付きにも由るなれども十中の八九迄は怠惰と不注意の結果ならざるはあらず何れの婦人にても尤も美となり得る原素中凉やかなる眼、淸美なる皮膚艶麗なる容姿、健全なる健康は皆其注意によりて作り得らるべしとゼチス孃は元と猫背なる醜婦なりし

が今は矢の如く直ぐなる背と櫻色の頬と唇と麗はしき容姿は美と稱しても恥かしからぬ迄美容となれりと今衞生的美人となるへき注意數件を左に擧けて聊か參考に供します

第一　身躰の康健に注意して精神を常に快活ならしむべきこと

第二　消化し易き食物を一日三度を限り多量に食すること

第三　日々必ず適度の運動を爲すべきこと

第四　充分の睡眠を爲すへきこと夜間晩くまで眠らざるときは血液逆上して其循環を害し爲めに皮膚の光澤を損し遂には身躰の健康を害し眼中爲めに爽清なることを能はず

第五、屢々入浴して皮膚を清潔ならしむべし但し入浴の温度は過度に熱きを嫌ふ熱きに慣るれば年老いて早く皺を生ず

第六　髮の毛は常にツヤ／＼と清潔にしてよく梳り散亂せしむべからず

第七　皮膚を美くしくすること

（イ）皮膚を美麗ならしむるは身躰の健康に注意すへきは勿論なり

（ロ）日烈しく照りて熱甚だしき日に脂濃き魚肉を食し日に觸るゝときは日に燒くることいよ／＼早し肉よりは魚にても輕きものはよろし

（ハ）汗の甚だしく出でたるも拭ひ去らず又拭ふとも充分ならさるものは日に燒くること早し熱燗の酒も亦惡し

（ニ）胡瓜の皮（液なれは尙更よし）にて顏を洗

ふことは日に燒けるを防ぐに多少効あり
日本にて多く用ゆる米糠は「キメ」を細かにするの効あり

(三)石鹸にて洗ふはよし強く皮膚を摩擦するは害あり

第八　爪は清潔に且美麗ならしむべし殊に爪は傳染病を媒介するの恐れあればよく／＼注意すべし

第九　歯は常に清潔にして美麗ならしめ歯垢をよく除き去るべし

第十　己れに適したる色合縞からの衣服其他装飾等適合したるものを擇むべし

第十一　鉛氣多き普通の白粉を多く用ゐるときは冷えて毒に感じ身衰へ皮膚に一種の斑痕を生ず

顔若しくは手さきを洗ふには左の法に從ふべきこと

一、顔若くは手さき等を洗ふには微温湯なるべきこと

二、水は成るべく降り來りしを其儘貯へ置きて用ゆべし
但し雨水は屋根などを經しは害あり降るを直ちに桶などに受けしに限る　蒸溜水なれは極めてよし

三、石鹸は善良なるもの極めて稀なりされば曹達のあまり多過ぎぬ石鹸を用ゆべし曹達の多きものは皮膚を粗放ならしむ米糠なれば極めてよし
但し糠袋は極めて和らかなる布を用ゐ決して粗布にて造るべからず

四、手拭はなるべく柔らかき手あたりのよき物を用ゆべし

五、微温湯に少量の硼砂を溶解したるもの殊によし色つやも多少白くなる「レモン」の絞り汁を塗るもよし牛乳にて顔を洗ふこと西洋にては行はるれども甚だしき効能はなし

眞の化粧とては是より外になし之をよく／＼注意して實行したらんには必らず目立ちたる効果あるべし但し食物は餘り油濃きもののみ食ふは皮膚の爲め宜しからず其他くれ／＼も運動の缺乏は美色を減殺するものなれば是等の條件によく／＼注意せられて眞正の衛生的完全なる美人となられんことを望むになむ

――――――

中外彙報

肺病の新療法

英人ギブリン氏は十九世紀雜誌に實驗談を掲載したる言によれば氏は我か明治廿八年に肺患に罹り三人の醫師に見放され愛蘭にて三ヶ月間牛乳にて生活し後獨國イドラッヒに赴き獨逸國博士オットー、ワルテル氏の治療を受けたり氏の療法は第一は充分に食物を取らしめ體量を增加せしむることにて食物は普通品にて又藥料を與へず（但し間食を許さす）第二は休憩と運動との割合を正確ならしむる爲め一日四回熱度を量りて適當休憩運動若くは横臥を命し第三には清淨なる空氣を呼吸せしむること此地は千五百尺の高さにして四周樹木を以て圍まれたる空氣清淨の地なりと云ふギブツ

ンは此地にワルテル氏の治療を受くること三ヶ月半遂に健康を回復し爾後三年間再發せざりしと云ふ是所謂空氣療法と云ふべきものか療法簡易なれば實行すること難きにあらざるなり

大日本婦人衛生會記事

○五月例會　五月十三日第二土曜日午后一時より御茶の水女子高等師範學校内に於て本會の例會を開きたり此日や天氣清朗なりしをもて會する者無慮四百餘名鍋島侯爵夫人、宮内大臣山中子爵夫人にも參會せられ役員には仁禮、渡尾の兩會長鳩山、高木、松平、宮下、三浦、羽田、緒方、岡田、秋元子爵夫人等出席せらる本會總裁　小松若宮妃周子殿下には午后二時頃御參會あらせらる役員一同御出迎をなし先づ階上設けの席にて御小憩會長御先導會場へ臨ませられたり會場は本校生徒の自習室にして近頃新築の建物なりしかば極めて清快なりき席定まるや帝國大學教授ドクトル、ベルツ氏には日本語を以て一場の挨拶をなし且通譯を三島醫學士に依賴したる旨を述べられ三島醫學士はベルツ氏に代り演壇に上られ女子の躰育に就て先づ東西家庭に於ける女子様力の如何を論じ延いて日本婦人衣服の不適當なる點を一々指摘し小兒附け紐のこと、帶紐を以て腹部を緊縛するの害、及其結び場所、振り袖、立て矢ノ字の帶、髮の結び方、はき物、座すること、『ハショリ』のこと、歩行のこと其他數件)最後ベルツ氏は結論して曰く余は絶對的西洋服を着用せらるべしと云ふにも非らざれども

第一　帶幅は昔風に狭くして地質の柔かなるものを用ゐること是は特に年少の人に勸告す

第二　衣服の袖は短かくなし元祿時代の昔の形を取り袖口を狭くすること

第三　小兒の附け紐の幅は成るべく廣くして結び場所は臍の上に結ぶこと

第四第五　編輯者閑落せり

第六　學校生徒の袴を着用するときは膝位迄の衣服を着用すべきこと

第七　はきもの　日本在來の下駄足駄の如きは歩行不便なりとて其缺點を擧げ改良解製の靴を示して演述さる

第八　日本婦人の丸髷、島田の如きは運動には尤も不適當にて乘馬などは思ひもよらぬことなれば矢張り束髮の方を勸告す云々

右第八ヶ條に就て細説せられ尚躰操道具人躰圖等に就き說明せられ右終り大澤岳太郎君の萬國平和會議に關する報告ありて全く散會を告げしは午后四時半頃なりき

特別廣告

大日本婦人衛生會懇親會收支決算報告

收入之部

一金百拾四圓八拾錢　總收入額

内譯

金百拾壹圓八拾錢　懇親會々費領收總額

金參圓　寄附金

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支出之部

一金百貳拾九圓貳拾五錢　總支出額

內譯

金拾五圓	陸軍軍樂隊報酬
金拾圓	狂言師報酬
金六拾六圓	壽司三百三十人分一個ニ付平均十九錢九厘餘
金貳拾貳圓五十五錢	菓子三百五十人分一個平均六錢四厘餘
金六圓九拾錢	ビール三ダース
金貳圓八拾錢	日本酒
金壹圓拾錢	カステーラ二カマ
金壹圓	密柑壹箱
金參圓九拾錢	懇親會當日手當及會費集金人手當

收支差引支出超過
不足金拾四圓四拾錢也

明治三十二年五月　私立大日本婦人衛生會

婦人衛生入會

自四月至五月入會者

○長谷川てう子紹介
芝區汐留町二丁目壹番地　通常會員　佐武てる子

○福原とく子紹介
神田區花田町六番地　通常會員　關和千代子
神田區錦町一町目二番地　通常會員　川崎はる子

○岩田晴子紹介
淺草區今戸町六番地　特別會員　片岡保子

○伊東まき子紹介
神田區鍛冶町三十一番地　通常會員　關谷たま子

○田中とう子紹介
神田區猿樂町二十五番地　通常會員　田所三辰子

○事務所へ申込
石川縣金澤市古寺町九番地　通常會員　宮橋まき子

○杉浦絲子紹介
日本橋區久松町二十九番地　杉浦看護婦會學生　岸田とり子
神田駿河臺西紅梅町四番地　彌生看護婦會學生　吉崎よね子

○幹事高木鎌子紹介
赤坂區檜町三番地　特別會員　山脇ふさ子
本郷區向岡彌生町三番地は十七號　通常會員　隈川秀子

○牧野えい子紹介
神田區駿河臺北甲賀町　特別會員　小守夫人松井まさ子

○事務所申込
芝區愛宕町傳染病研究所　特別會員　宇良田唯子

○水谷のふ子紹介
芝區愛宕町傳染病研究所　通常會員　小林ちゑ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○中野悦子紹介

新潟市産婆學校內　棚橋きく子
同所　高橋みね子
同所　丹羽しく子
同所　八木よしの子
同所　中野せき子
同所　藤澤てふ子
同所　目黒さき子
同所　長谷川たま子
同所　鳥羽まさ子
同所　森山つる子
同所　菱田こまじ子
同所　前田わせ子
同所　下きくの子
同所　澁谷せい子
同所　本間たか子
同所　齋藤いち子
同所　佐藤れい子
同所　井上しづ子
同所　佐藤ふよ子
同所　時岡つね子
同所　佐藤いく子
同所　石高わい子
同所　川上ますへ子
同所　星野のぶ子
新潟市白山浦町小藤方　荒川けん子
同　古町通八番町　石崎みち子
同所　小熊花子

轉居

赤坂區臺町二番地へ　石黒すま子
牛込區二十騎町十六番地へ　高山さき子
芝區西ノ久保葺手町十四番地へ　森琴子
本郷區元町二丁目四十八番地秋間方へ　澁美かな子
神田區淡路町二丁目三番地へ　山本しげ子
赤間關市關後地村字田中第百八十六番地へ　勝田久米子

正誤

前號雜誌第百十三號入會者の部。栗原。松崎。古屋の三氏は。杉浦いと子紹介。栗原は栗原。古屋は古矢の誤植に付茲に正誤す

廣告欄

●齒科診察

東京日本橋區本町二丁目

齒科醫　高橋孝子

齒科醫　高橋虎一

傳染病に非さるも病人ある家は消毒必用なり産前産後轉宅等凡そ不幸わりし居室に對して消毒を怠る時は不測の危難を家屋に遺留す故に春夏秋冬傳染病の有無に不拘未發的豫防法に重きを置く

外來部は消毒料即答
巡回部は見積を前陳

東京瓦斯消毒所

本部　淺草松葉町八十八番地

●看護婦産婆派出廣告

●看護婦　諸病院卒業の者にして充分實力ある看護婦を何病に係らず速に派出し其本分を盡さしむ

●産婆　遠近貧富に拘らず懇篤に取扱候

電話浪花二百廿九番

日本橋區久松町二十九番地

杉浦看護婦會

會主　杉浦絲子

●私立大日本婦人衛生會規則摘要

一本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり

一會員たると欲する婦人は何人にても入會することを得

一入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には會員證を交付す

一會員を分ちて終身特別及通常の三種とす

一終身會員は一時に金拾圓以上特別會員は一ヶ月金貳拾錢以上通常會員は一ヶ月金拾錢を納むるものとし學生其他事故ある者は減額して金七錢を納むるものとす

但地方會員の會費は半ヶ年若くは一ヶ年分を前納せらるべし

一男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

一會員は本會に於て毎月發行する雜誌を無料にて受ることを得

一退會せんとする者は會員證を添へ本會事務所に報知すべし死亡する時は親戚知友より通知すべし

一集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし常通第一土曜日午后一時より開會するものとす

但毎會學識經驗ある者に衛生上の講義演説談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす

一會員は家族婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演説等を陪聽せしむることを得

一講義演説等は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員に縁故ある男子は此限にあらずと雖も本會の都合に由り臨時謝絶することあるべし

●支會

一地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出づべし爾後員數増減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尚詳細は本會事務所へ承合すべし

注意

一會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便取扱所(四谷郵便局)宛振出あるべし

一會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費にして別に郵券二錢を添へらるべし然らざれば受領證を送付せず

但止むを得ざる場合には郵券を代用するも妨げなしと云へども總て一割とす

一轉居せられたるときは其旨直ちに本會事務所宛通せらるべし

一會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料		
一頁	金二圓	總て前金とし割引せず
半頁	金一圓	
一行	金六錢五厘	

本誌定價壹部金拾錢　毎月一回發行

東京四谷區仲町三丁目廿三番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中德三郎

東京牛込區矢來町三番地
印刷者　吉岡嚴八

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（明治二十六年四月四日遞信省認可）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN